

しなののうた

世田谷の文学館を目指しつつ地図を広げて列車乗り継ぐ



杉田小百合

しなののうた

黒塗りの塀沿いに緋鯉緩やかに紅葉彩る小径を歩む

杉田小百合



しなののうた

生前の澁澤龍彦を語りたる四谷シモンは人形作家



杉田小百合

しなののうた

亡夫との親交篤く今は亡き著者のイベント招かれ子等と

杉田小百合



しなののうた

幾度も加筆されたる原稿に賜る文の文字の懐かし



杉田小百合